若年者の職業適応に関する縦断的分析

——職業観を中心にして——

大根田　充男

はじめに

「職業」とはなにか，との問いに対し一言で答えるのはむずかしい.「職業」には，経済性，社会性，自己実現性などの側面があると言われているが，これらをさらに操作的に定義するとなると，さまざまな立場にわかれてくる．たとえば,「職業意識」とか,「職業観」とか言っても，これらの問題に対し関心を寄せている人々でも，共通に理解できるような枠組があるわけではない．その背景には,「人と職業とのむすびつき」といったとしても,「人」が「職業」をつくり出す側面と「職業」が「人」をつくり出す面とが相互に関連しあっているからであろう．

本論では，このような「職業」とのむすびつきを，職業研究所で昭和44年以来実施している「若年労働者の職業適応に関する追跡研究」の中から取り上げていくことにしたい．

この研究は，国立教育研究所と共同で実施しているものであり(中学，高校，大学在学時のデータは国教研，それ以外のデータは職研で収集)，中学校卒業後10年間にわたって同一対象者の職業行動を継続的に把握しようとする試みで開始された．対象者は，東京，神奈川，宮崎など7都県下の特定中学89校(学級)を母集団としている．

現段階で(昭和50年度)，中学在学時および高校へ進学した者については在学時の資料，また，中卒就職者については卒業後4.5年時点，高卒就職者については1.5年時点までの資料が収集され，集計・分析が進められている．

以下では，第1に，中学在学時調査によって，当時の職業に対する対象者の考え方と保護者のそれとの一致点と相異点，またその後の進路との関係で見たときの差などを取り上げる．

第2に，高校，大学に進学した者について，中学時代と比較してどのように職業に対する見方が変化したのか，つまり，どのような点で中学時と同じであり，どのような点で異なったのか，さらに，高校へ進学した者で職業に関連していると思われる「大学観」を取り上げることにする．

第3に，さきの第2の課題と関連させながら中学，高校卒業後それぞれ4.5年，1.5年の時点(19歳)でどのような職業観や生活設計をめざしているのか，また「1年先」(20歳)，「5年先」(24歳)，「10年先」(29歳)に自分の「勤め先」や「仕事」がどうなっているかなどを取り上げることにする．

なお，これまで述べたことからもわかるように当研究は現在継続中のため，これらの課題に関する検討は，全般的な傾向をさぐる程度にとどまっていることをあらかじめ断わっておきたい．

1.　職業観(中学在学調査による)

国立教育研究所の行なった進路追跡研究では，つぎの質問によって職業観を取り上げている(調

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

査実施昭和43～45年).

イ. 1. 両親や先生の言うことよりも，自分の考えで職業を選びたい
2. 自分の考えよりも，両親や先生の意見にしたがって職業を選びたい

ロ. 1. 経済的には恵まれなくても，世の中のためになる職業につきたい
2. 世の中のためになることより，経済的に豊かな生活ができる職業につきたい

ハ. 1. 若いうちは何でもやればできるのだから，いろいろな職業を経験してみたい
2. 就職するときにはよく考えて職業を選び，その職業を変えたくない

ニ. 1. いそがしくてゆっくり楽しむための時間がなくても，自分がそのことにうちこめる職業につきたい
2. 仕事はきまった時間内に終わり，楽しむ時間を十分もてる職業につきたい

ホ. 1. 若いときに少しは苦労しても，将来高い地位につけるような職業につきたい
2. 将来高い地位につけることよりも，平凡で幸福な家庭をつくれるような職業につきたい

なお，これら5問のうち，イ．の選職方法とハ．の転職観は中学在学時でのみ用いられ，のこる3問は中学卒業後高校へ進学した者に対しても調査が行なわれている．

(1) 中学在学時の職業観—保護者との関係—

まず，中学在学時代に調査対象になった者と，その保護者の回答から，職業観の持ち方にあらわれた相違点と一致点を取り上げることにする．ここでは，中学卒業後の進路に関係なく対象者の全般的な特性を描く1つの素材としたい(ここでの対象数2,774).

対象者と保護者とで職業に対する考え方が一致していた項目を見ると(表1)，①就職するときにはよく考えて職業を選び，その職業を変えたくない(変えないほうがよいと思う)78%，②両親や先生の言うことよりも，自分の考えで職業を選びたい(本人にあまり干渉しないで，本人の考えた職業にすすませたい) 67%，③将来高い地位につけることよりも，平凡で幸福な家庭をつくれるような職業につきたい(つかせたい) 56%，などである．

表 1 職業観——致した点—

	全体	男子	女子
自分の考え	67.3	68.1	66.5
両親や先生の意見	5.2	4.9	5.6
計	72.5	73.0	72.1
世の中のため	24.2	20.3	28.2
経済的に豊かに	38.4	39.5	37.2
計	62.6	59.8	65.4
いろいろな職業	2.8	3.2	2.3
職業は変えない	77.6	74.1	81.3
計	80.4	77.3	83.6
自分のうちこめる	34.6	38.2	30.8
自分の時間の持てる	24.4	19.2	29.9
計	59.0	57.4	60.7
将来高い地位	13.4	22.1	4.2
平凡で幸福な家庭	55.9	36.8	76.2
計	69.3	58.9	80.4

したがって，「なるべく1度選んだ職業は変えず，平凡で幸福な家庭をめざす．この場合，本人(自分)の意志を尊重する．」といった職業選択の態度が浮かんでくる．とくに女子の場合，「職業は変えない」「平凡で幸福な家庭」の2点で，本人と保護者の意向が一致している．

一方，両者の考え方の一致しなかった点は表2にあらわしたように非常に多岐にわたっている．比較的多いケースとして全般的に見ると，①経済的に豊か(本)↔世の中のため(保)20%，①自分の時間の持てる(本)↔自分のうちこめる(保)20%，③自分の考え(本)↔両親や先生(保)18%，③自分のうちこめる(本)↔自分の時間の持てる(保)18%などがあげられる．

男子では，①経済的に豊か(本)↔世の中のため(保)24%，②自分の時間の持てる(本)↔自分のうちこめる(保)24%，③将来高い地位(本)↔平凡で幸福な家庭(保)23%，また女子では，自分のうちこめる(本)↔自分の時間の持てる(保)21%がめだ

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

表 2　職業観——致しない点—

本人	保護者	全体	男子	女子
自分の考え	両親や先生	17.6	16.4	18.9
両親や先生	自分の考え	7.4	7.6	7.1
世の中のため	経済的に豊か	12.0	10.8	13.3
経済的に豊か	世の中のため	20.2	23.8	16.3
いろいろな職業	職業は変えない	11.9	14.6	9.0
職業は変えない	いろいろな職業	4.2	4.0	4.5
自分のうちこめる	自分の時間の持てる	17.7	14.3	21.4
自分の時間の持てる	自分のうちこめる	19.5	23.9	14.7
将来高い地位	平凡で幸福な家庭	16.3	22.9	9.4
平凡で幸福な家庭	将来高い地位	11.0	14.6	7.1

表 4-1　職業観の変化(同)

中学在学→高校在学	全体	男子	女子
世の中のため→	22.5	17.7	26.6
経済的に豊か→	45.5	51.1	39.1
計	(68.0)	(68.8)	(65.7)
自分のうちこめる→	38.7	38.9	38.6
自分の時間の持てる→	25.4	26.1	24.7
計	(64.1)	(65.0)	(63.3)
将来高い地位→	18.7	32.6	5.2
平凡で幸福な家庭→	54.0	31.9	75.5
計	(72.7)	(64.5)	(80.7)

っている．

(2) 中学在学時の職業観—その後の進路との関係—

(1)の職業観をその後の進路(中卒後就職，高校進学後就職，大学などへ進学）との関係で見たのが表3である．*

これによれば，中学卒業後の職業生活について「就職するときによく考えて職業を選び，その職業を変えたくない」，言いかえれば，「転職はしたくない」という考え方はその後の進路に関係なく共通していたものと言える．

また「世の中のため↔経済的に豊かな生活」「将来高い地位↔平凡で幸福」については，中卒非進学，高卒非進学の者の差は少なかったが，大学進学中の者では「世の中のため」「将来高い地位につける職業」がとくに顕著にあらわれている．「自分がうちこめる職業」「自分の考え方で職業を選びたい」という者は学歴が高い者ほど多く，中

表 4-2　職業観の変化(異)

中学在学→高校在学	全体	男子	女子
世の中のため→経済的に豊か	18.3	16.9	19.6
経済的に豊か→世の中のため	14.5	14.3	14.7
計	(32.8)	(31.2)	(34.3)
自分のうちこめる→自分の時間の持てる	16.8	16.8	16.8
自分の時間の持てる→自分のうちこめる	19.1	18.2	19.9
計	(35.9)	(35.0)	(36.7)
将来高い地位→平凡で幸福な家庭	12.0	16.8	7.3
平凡で幸福な家庭→将来高い地位	15.3	18.8	12.0
計	(27.3)	(35.4)	(19.3)

* ここでの結果は第1グループ，第2グループに限定した(表8,9参照)

表 3　進路別の職業観(中学在学時調査による)

		計	世の中のため	経済的に豊かな生活	回答なし	自分がうちこめる	楽しむための時間	回答なし	将来高い地位	平凡で幸福	回答なし	自分の考え	両親や先生の意見	回答なし	いろいろな職業	職業を変えたくない	回答なし
中卒	非進学(計)	419	33.7	64.0	2.4	48.9	48.9	2.1	26.0	71.6	2.4	77.3	20.3	2.4	12.6	85.2	2.1
	男子	214	27.6	71.0	1.4	52.8	46.3	0.9	31.8	66.8	1.4	77.1	22.0	0.9	17.3	81.8	0.9
	女子	205	40.0	56.6	3.4	44.9	51.7	3.4	20.0	76.6	3.4	77.6	18.5	3.9	7.8	88.8	3.4
高卒	非進学(計)	820	34.6	64.8	0.6	52.8	47.0	0.2	25.0	74.6	0.4	82.7	16.8	0.5	10.9	88.8	0.4
	男子	396	31.8	67.4	0.8	53.3	46.2	0.5	41.9	57.6	0.5	81.8	17.7	0.5	14.1	85.4	0.5
	女子	424	37.3	62.3	0.5	52.4	47.6	—	9.2	90.6	0.2	83.5	16.0	0.5	7.8	92.0	0.2
大学などへ進学(計)		583	48.7	50.3	1.0	58.5	40.8	0.7	34.6	64.5	0.9	90.6	9.1	0.3	12.7	86.4	0.9
	男子	308	39.9	58.8	1.3	57.8	41.2	1.0	52.3	46.8	1.0	89.6	9.7	0.6	15.3	83.8	1.0
	女子	275	58.5	40.7	0.7	59.3	40.4	0.4	14.9	84.4	0.7	91.6	8.4	—	9.8	89.5	0.7

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

学時代の職業観とその後の進路が相互に関連している．

2. 中学在学時から高校在学時までの職業観の変化

表4-1，表4-2は，高校へ進学した者(その後就職，あるいは大学へ進学した者の合計)の職業観を中学時代のそれと比較したものである．

中学時代と変わらなかった項目で多いものは，①平凡で幸福な家庭54%，②経済的に豊か46%，③自分のうちこめる職業39%などの考え方であった．とくに男子では②が，また，女子では①が中学時代から引きつづいている．また全般的に見て，60%以上の者は中学時代と同じ職業観を高校に在学してからも持ちつづけていたと言える．

以上は，中学卒業後の進路が，高校卒業後就職した者と大学へ進学した者とを合計した結果であったが，現在までにその後の進路が判明した者(大学進学中か高卒後就職か)の職業観を示したのが表5である．

高卒非進学者の場合，「世の中のため↔経済的に豊かな生活」「自分がうちこめる↔楽しむための時間」ではごくわずかな変化が見られるにすぎない．「将来高い地位↔平凡で幸福」については，中学在学時と比べると，後者の「平凡で幸福」という考え方をとる者が増加し，前者の「将来高い地位」が減少しているが，これは，男子でこのような変化があらわれたことによっている．

一方，大学などへ進学中の者では，中学在学時の結果と比べると，「自分がうちこめる↔楽しむための時間」では前者，「将来高い地位↔平凡で幸福」でも前者が増加している．このことは，中学在学時の進路別の結果が高校在学時の結果によって改めてたしかめられたとも言える．この点を性別で見ると，「将来高い地位」が，とくに男子で多いことは，わが国の男女の職業経歴の違いが反映されたものとして理解できる．しかし，「自分がうちこめる」では女子のほうが，また，「楽しむための時間」では男子のほうが多く，かならずしも現実の職業経歴の違いだけからでは理解しがたい点ものこっている．

職業とのむすびつきは，はじめに述べたように，その人の置かれている状況に規定されるところが多い．そして，これまで述べてきたことは，おもに中学時代につづく進路の違いとの関連が中心であったが，一方では，これらの職業観は高校卒業以後の現実の進路とも関係している．

この点を高校在学当時の「大学観」から取り上げたのが表6である．大学の意義を質問紙によってとらえるには限界があるが，大学へ進学した者と，高卒後すぐに就職した者と比べると，「大学」の見方はかなり似通っている面がある(表6)．大学へ進学した者も高卒後就職した者も，大学は「教養を身につけるところ」「十分時間があり，レジャーを楽しむ場」「指導者の養成機関」と同じように見ている．ただ，現実の大学の場はともかくとして，大学進学中の者のほうが「専門の学問を修めるところ」「よい職業につくための資格をとる場」と見ている者がそれぞれ16，7%ほど多い．

また，さきにふれたことであるが，大学へ進学した者のうち女子のほうが職業観について「自分のうちこめる職業」を志向していた者が多く，男子で「自分の時間の持てる」職業を志向している者が多かったが，これを裏づけるかのように，男子の大学進学者で「十分時間があり，レジャーを楽しむ場」と大学を見ている者がめだっている．

3. 学校卒業後の職業観

(1) 卒業後の職業観

これまでの1．および2．は中学校，高校に在学中の結果をその後の進路との関連で取り上げられた．大学進学中の者を除いて，中学卒業後4.5年，高校卒業後1.5年の時点で就職した者の職業観を以下の5項目から見たのが表7である(表9職業別構成参照)．

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

イ. 1. 将来の生活よりいまの生活を大切にしたい
2. いまの生活より将来の生活に期待したい

ロ. 1. 苦労が多くても自分のほしいものはどこまでも追求したい
2. 平凡でもよいから自分のペースを守っていきたい

ハ. 1. 仕事が中心になる生活がしたい
2. 仕事以外の活動が中心になる生活がしたい

ニ. 1. 収入は少なくてもよいからもっと自由になる時間がほしい
2. 自分の自由時間は減ってもよいからもっと収入をふやしたい

ホ. 1. きめられた仕事をするより自分で多くのことがきめられる仕事がしたい
2. 自分で多くのことがきめられる仕事よりきめられた仕事のほうが気楽でいい

表 5 進路別に見た職業観(高校在学時調査による)

		計	世の中のため	経済的に豊かな生活	回答なし	自分がうちこめる	楽しむための時間	回答なし	将来高い地位	平凡で幸福	回答なし
高卒	非進学(計)	719	31.6	67.6	1.8	54.8	44.5	0.7	30.5	68.3	1.3
	男子	336	25.9	71.8	2.4	54.5	44.6	0.9	47.9	49.7	2.4
	女子	383	34.8	64.0	1.3	55.1	44.3	0.5	15.2	89.6	0.3
大学などへ進学(計)		479	45.5	52.6	1.9	63.2	36.2	0.6	36.8	62.5	0.8
	男子	243	40.3	57.2	2.5	58.9	40.4	0.8	52.3	46.9	0.8
	女子	236	50.8	47.9	1.3	67.8	31.7	0.4	20.8	78.4	0.8

表 6 大学観(高校在学時調査)

		計	専門の学問を修めるところ	よい職業につくための資格をとる場	十分時間があり、レジャーを楽しむ場	教養を身につけるところ	学歴偏重の場	指導者の養成機関	学生運動の場
高卒	非進学(計)	719	45.9	46.7	36.9	36.3	27.0	14.7	7.1
	男子	336	44.3	47.9	40.8	32.4	31.8	15.8	8.3
	女子	383	47.3	45.7	33.4	39.7	22.7	13.8	6.0
大学などへ進学(計)		479	61.8	54.1	37.4	37.4	19.2	16.1	6.3
	男子	243	63.4	54.7	42.4	35.8	24.7	19.8	3.7
	女子	236	60.2	53.4	32.2	39.0	13.6	12.3	8.9

これによれば，男子では中卒者，高卒者とも「自分で多くのことがきめられる仕事がしたい」という者が多く，とくに高卒者の場合にめだっている(79%)．これに対し，女子では中卒者，高卒者とも「平凡でもよいから自分のペースを守っていきたい」という者が多く，とくに中卒者で目立っている(91%)．

このような全般的な傾向とともに，高卒者では「収入より自分の時間」が男女とも重視されている．しかし，男子高卒者では，これについで「仕事中心の生活」が，また女子高卒者では，「仕事外中心の生活」があげられ，生活に占める仕事のウエイトが異なっている．

一方，中卒者の場合，女子就職者ではさきの「平凡でもマイペース」についで「仕事外中心」

表 7 学校卒業後の職業観(中卒，高卒について)

中卒男子	高卒男子	中卒女子	高卒女子
①自分で多くのこと(65.2)	①自分で多くのこと(78.9)	①平凡でもマイペース(90.6)	①平凡でもマイペース(78.2)
②平凡でもマイペース(63.1)	②収入より自分の時間(60.2)	②仕事外中心(59.9)	②収入より自分の時間(75.9)
③将来の生活に期待(58.6)	③仕事中心の生活(57.2)	③将来の生活に期待(53.1)	③仕事外中心(67.7)
④仕事中心の生活(55.6)	④将来の生活に期待(57.0)	④自分の時間より収入(50.5)	④自分で多くのこと(61.6)
⑤自分の時間より収入(55.0)	⑤平凡でもマイペース(56.5)	⑤自分で多くのこと(50.0)	⑤いまの生活(49.9)

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

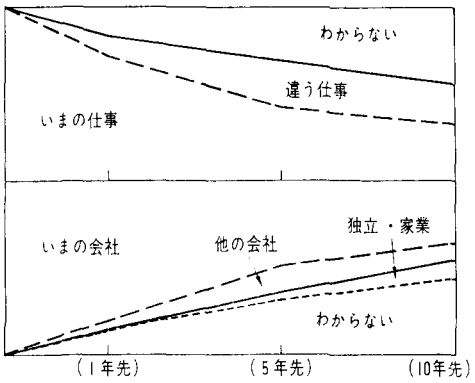

図 1　仕事と会社に対する見とおし(男子高卒者)

「将来の生活に期待」などがあげられているものの，その方向はかならずしも明らかではない．男子就職者では，「自分の時間より収入」「平凡でもマイペース」は高卒の男子に比べると多い．

以上のような傾向が認められるものの，性別および学歴別の差異に対し，現在の「勤め先」と「仕事」についてどのような見とおしを持っているかが影響していると思われるので，この点につき高卒男子の全体的傾向と職業別の傾向はつぎのようになる(第2グループ第4回調査◎印，表8)．

(2) 職業生活の展望—今後の勤め先と仕事の見とおし—

男子の場合，全般的に見ると，「いまの勤め先にいる」と見とおしている者は，「1年先」(20歳時点)では80%であるが，「5年先」(24歳時点)，「10年先」(29歳時点)になると，それぞれ49%，37%というように減少してくる．また，「他の会社にいる」と見込んでいる(いわゆる"転職")は，「1年先」では5%であるが，「5年先」になると，16%に増加する．なお，「10年先」のことになると，「わからない」が当然増加してくるが，「独立・家業」も10%あまり見られる．

一方，「仕事」についての見とおしは，「1年先」にもいまと「同じ仕事をしている」は73%であるが，「5年先」，「10年先」にはそれぞれ42%，32%となり，「違う仕事をする」と予想している者が増加してくる．(図1)

これらの「勤め先」と「仕事」についての見とおしは，職業別による差がいちじるしい．(1)事務系職業の場合，「仕事」の内容は現在と「違う」仕事をすることになるかもしれないが，「5年先」にも「いまの会社」にいると見とおしている者が多い(62%)．(2)販売系職業の場合，「いまの仕事」と同じである者が「1年先」，「5年先」でも多く，「仕事」についての見とおしは19歳の時点で事務系職業に比べて明確になっている．(3)技能系職業では，「1年先」の「仕事」は「いまの仕事」と同じと見ている者が多いが，「5年先」のこととなると，「仕事」「勤め先」とも「わからない」者が多い．(4)工程系職業で

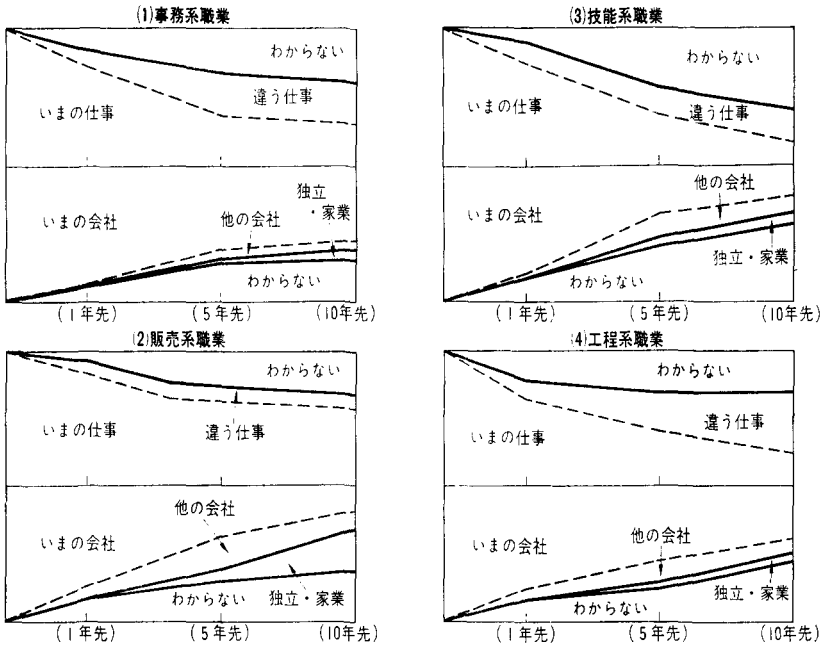

図 2　仕事と会社に対する見とおし(男子・職業別)
(1)事務系職業　(2) 販売系職業　(3) 技能系職業　(4) 工程系職業

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

表 8　追跡研究年次別調査スケジュール

年次		昭45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56
第1グループ	和歌山(184) 宮崎(271)	第1回調査 (中卒者) ※1	第2回調査 (中卒者) 高校調査	第3回調査 (同左) 〔高校卒業〕	第4回調査 (中卒者) (高卒者) 短大・高専調査	第5回調査 中卒者 高卒者 短，専卒者 〔短大，高専卒業〕	第6回調査 (同左) 大学調査	第7回調査 中・高卒者 短，専，大卒者 〔大学卒業〕			最終調査 (全員)		
第2グループ	埼玉(528) 滋賀(154) 兵庫(698)	〔中学卒業〕 ※2	第1回調査 (中卒者)	第2回調査 (同左) 高校調査	第3回調査 (同左) 〔高校卒業〕	◎ 第4回調査 中卒者 高卒者 短大，高専調査	〔短大，高専卒業〕	大学調査	第7回調査 中，高卒者 短，専，大卒者 〔大学卒業〕			最終調査 (全員)	
第3グループ	東京(1097) 神奈川(613)	中学調査	〔中学卒業〕	第1回調査 (中卒者)	第2回調査 (同左) 高校調査	第3回調査 (同左) 〔高校卒業〕	第4回調査 中卒者 高卒者 短大，高専調査	〔短大，高専卒業〕	大学調査	第7回調査 中，高卒者 短，専，大卒者 〔大学卒業〕			最終調査 (全員)

表 9　職業別構成(19歳時点，第1グループ，第2グループ)

	計	事務従事者	販売従事者	農林業作業者	技能工生産工程作業者	サービス職業従事者	その他
TOTAL	1,177	391	99	21	472	77	118
		33.2	8.4	1.8	40.1	6.5	10.0
男	585	80	44	17	341	47	56
		13.7	7.5	2.9	58.3	8.0	9.6
女	592	311	55	4	131	30	61
		52.5	9.3	0.7	22.1	5.1	10.3
中卒	369	46	27	6	234	27	29
		12.5	7.3	1.6	63.4	7.3	7.9
高卒	808	345	72	15	238	50	88
		42.7	8.9	1.9	29.5	6.2	10.9
中卒男	193	4	6	6	154	18	5
		2.1	3.1	3.1	79.8	9.3	2.6
高卒男	392	76	38	11	187	29	51
		19.4	9.7	2.8	47.7	7.4	13.0
中卒女	176	42	21	—	80	9	24
		23.9	11.9	—	45.5	5.1	13.6
高卒女	416	269	34	4	51	21	37
		64.7	8.2	1.0	12.3	5.0	8.9

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

は，「5年先」には，いまと「違う仕事」をすることになると見とおしている者が多い．(図2)

4. 職業適応をめぐる課題

さきの中学在学時の職業観に関する調査によれば，その後の進路，および性別に関係なく「就職するときはよく考えて職業を選び，その職業を変えたくない」という者が多かった．それは保護者の意見とも一致していた．しかし，中学，高校の新規学卒就職者のうち，最初の事業所を離職する者は1年で20%，3年で50%，5年で70%に達している(労働省労働市場センター，新規学卒就職者の就職離職状況調査結果)．

学校時代には本人はもちろん，教師，保護者も「転職」はしないほうがいいとし，それぞれの立場から努力がはらわれているものの，結果としては現実には離職する者は多い．さらに付け加えれば，就職後の職場リーダーの助言，職業安定機関などの相談・援助などの活動がなされているにもかかわらず，以上のような現象が起きている．もちろん，近年の不況下にあっては以前より離職者は減っていることであろう．また，一部の業種・産業によっては縁のない事柄かもしれない．

しかし，あえて新規学卒就職者にかぎってみれば，「職業を変えたくない」気持とは裏腹に「転職」することは一部の人々の問題とはもはや言いきれなくなってきている．そして，この問題には，今日の教育，企業，行政機関，地域社会，家族といったさまざまな分野から数多くの指摘がなされているが，転職する当人の立場に立ったとき，そこには問題がないわけではない．

さきの第4回調査結果によれば，「転職」にあたって「相当な決心がいる」し，「強い不安」がつきまとう，と感じている者が60%あまりを占めていた．このような量的にも，また質的にもさまざまな課題をかかえている若年者の職業生活のあり方につきとかく「離職」の「よし・あし」や「その理由」に関心が集まりがちである．そして，このことにはそれなりに意義があると思われる．しかし，なにが「問題」かは，「職業」に規制される面と，「職業」を規制する面があることを考えておかねばならない．

かりに，中学，高校在学時の職業目標が就職した後も変わらず，また当該職場の状況もすべてそれを達成できるような体制であるなら「転職」は起こり得ないであろう．現在でも職業指導の理念に流れている適材適所主義，あるいは適合論(個人の要求と組織の要求とのマッチング，一致点を強調)の主張はこのような前提に立っている．ある一時点に立てば，また1つの視点に立てば，このような人と職業との調和を予定した調和予定説的考え方は今後とも有効であろう．

しかし，一時点に立って，ある1つの価値観に立つ職業についての考え方がいつまでも変わらないという保証はどこにもない．変わる者も変わらない者もいることは，さきの2.で見たとおりである．したがって，職業指導，職業適応の課題は，単に「職業と個人」の関係に終わるのでなく，「学ぶこと」「生きること」をも包含したものでなければならない．この意味で職業問題を「教育」の視点からとらえ直す時期にきていると思う．

おおねだ・みつお　1938年生　雇用促進事業団職業研究所　第1研究部第1研究室研究員
立教大学大学院博士課程卒
専門　社会心理学，職業適応論

書評者募集

今月はつぎの4冊が学会に届いております．書評ご希望の方はお申し出ください．

1) S. Danø: Nonlinear and Dynamic Programming, 1975, pp. 164
2) P. Kall: Stochastic Linear Programming, 1976, pp. 95
3) M. Beckmann (ed.): Optimization and Operations Research, 1976, pp. 316
4) K. Miyazawa: Input-Output Analysis and the Structure of Income Distribution, 1976, pp. 135

(発行元はいずれも Springer-Verlag)

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．